

小倉織をあしらった制服を新調

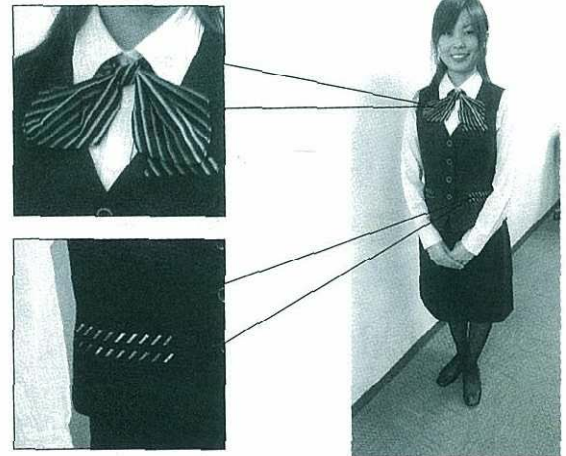
当会議所は小倉織の生地をネクタイとポケットにあしらった女性職員用制服（冬用）を製作、今シーズンから着用している。

これまで女性職員は既製品の制服を採用していたが、当会議所が「JAPANブランド育成支援事業」(注)として平成21年から支援している伝統工芸の「小倉織」をPRするため初めてオリジナルデザインした。デザイン性の高い小倉織を来所

小倉織……江戸時代初期から、豊前小倉藩で袴や帯など用に織られ全国で珍重された。経糸が色のリズムを生み立体感あふれる縦縞が特徴。しなやかな質感の木綿布で、明治時代は文明開化の波のなか男子学生服として霜降り的小倉織が新たに全国に広がったが、戦時下の昭和初期に途絶えてしまった。それから数十年後、染織家の築城則子さんが偶然出会った小さな布の断片から2年近くの試行錯誤の結果、1984年に復元、現代の布として再生させた。

されるお客様や訪問先でも多くの人に見てもらい、地元でも認知度の向上を図ろうと企画したものの。今後は多くの地場企業にも小倉織を使った制服を取り入れてもらうようPRしていく。

(注)……海外販路開拓のため中小企業を持つ素材や技術などを生かした商品開発、戦略策定を支援する事業



小倉織をあしらったリボン（左上）とポケット（左下）

【問い合わせ】総務課：山内・神崎（TEL：541-0181）